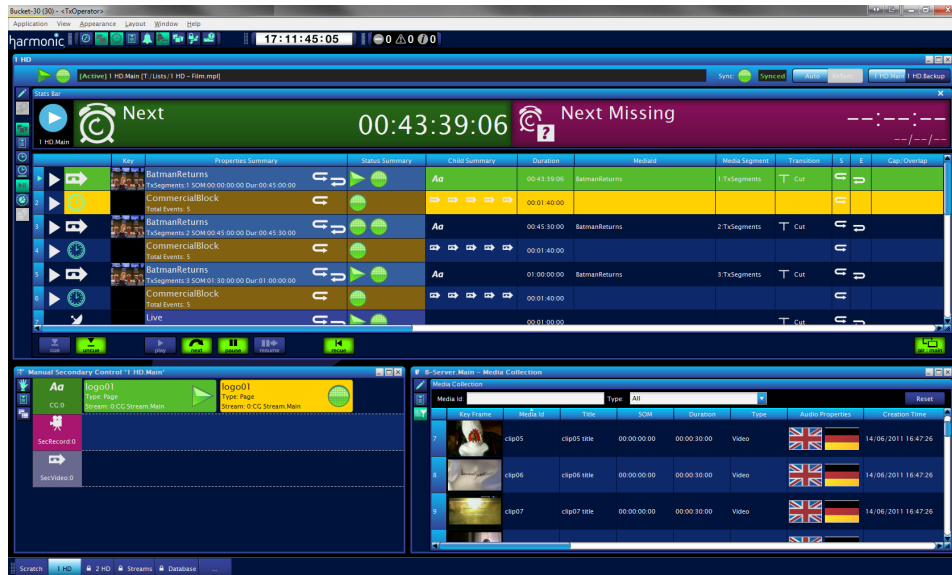


PolarisTM Advance

統合チャンネルプレイアウトオートメーションシステム



HarmonicのPolarisTM Advanceは、SpectrumTM ChannelPortTM統合チャンネルプレイアウトシステム用に最適化された強力なマルチチャンネルオートメーションシステムであり、再生送出ワークフローにおける柔軟性、信頼性及び効率性を提供します。

Polaris Advanceは、チャンネル・イン・ア・ボックス (CIAB) 及び統合チャンネルプレイアウトアプリケーションに対応するHarmonic Polarisプレイアウト管理ツール群の1つとして、IT及びハイブリッドブロードキャストインフラ内でSpectrum ChannelPortならびに関連サードパーティ製デバイスの制御を最適化します。64ビットのクライアントサーバーアーキテクチャをベースとするこのシステムでは、オペレーターが1カ所で最大4つのChannelPortチャンネルを制御できるほか、操作が明確に可視化されているため効率的なチャンネル管理が可能です。また、プレイアウトとインジェストモニタリングを直接デスクトップで表示することもできます。カスタマイズ可能なGUIのおかげで、オペレーターは画面レイアウトのルックアンドフィールを指定し、環境設定を保存して、以降のセッションに速やかに読み込むことができます。

Polaris Advanceの優れた柔軟性と豊かなユーザーインターフェイスは、個人やグループのアクセシビリティ、例外処理及びリソースアクセスに合わせて最適化できます。この能力により、オペレーターの操作が簡素化されるため、サービスローディングとワークフローの効率性が大きく改善されます。デスクトップのレイアウトを固定して業務の合理化とミスの最小化に役立てることも可能です。

Polaris Advanceは、ChannelPortを含むパッケージ化されたソリューションの一部としてのみ利用可能です。システムの機能豊富な接続ツールがさまざまなワークフローと密接に統合され、デジタルアセット管理、トラフィック及びスケジューリングシステム (BXF及びベンダー指定のAPIを含む) のための高度なプロトコルを提供します。

- 1:1の完全冗長性を備えたSpectrum ChannelPortの自動制御機能
- 最大4式のクライアントに対応
- Unicode準拠により、アラビア語、中国語、日本語を含む複数言語での操作が可能
- ニアラインストレージからメインサーバー、あるいは冗長システム内のメインとバックアップの両サーバーへの自動メディアキャッシュを内蔵
- メディア追跡及びステータスに使用されるSQLデータベース
- BXF及びExcelインターフェイスによるトラフィックシステムからのファイルインポート
- オフライン準備リストにより、オンエアスケジュールの作成が可能。また、送信中及びニアラインストレージ内の利用可能なすべてのクリップを表示
- 冗長構成によりチェンジオーバーを完全自動化

ハイライト

Polaris™ Advance 統合チャンネルブレイアウトオートメーションシステム

Key	Properties Summary	Status Summary	Child Summary	Duration	MediaId
1	BatmanReturns TxSegments: 1 SOM 00:00:00:00 Dur: 00:45:00:00		Aa	00:43:39:06	BatmanReturns
2	CommercialBlock Total Events: 5			00:01:40:00	
3	BatmanReturns TxSegments: 2 SOM 00:45:00:00 Dur: 00:45:30:00		Aa	00:45:30:00	BatmanReturns
4	CommercialBlock Total Events: 5			00:01:40:00	
5	BatmanReturns TxSegments: 3 SOM 01:30:00:00 Dur: 01:00:00:00		Aa	01:00:00:00	BatmanReturns
6	CommercialBlock Total Events: 5			00:01:40:00	
7	Live			00:01:00:00	

Polaris AdvanceのSmartList技術がエンタープライズレベルのプレイリストインテリジェンスを実現

SmartList

Polaris Advanceには、直前のスケジュール変更が頻繁なチャンネルの制御を可能にする、SmartListプレイリストテクノロジーを内蔵しています。また、複数のイベントタイプ（ライブ、クリップ、CG、字幕、DVE、AFD、ボイスオーバー）や、複数の分野（コマーシャル、プロモーション、ライブ、ニュース）、様々なイベントの開始及び終了方法（タイマー、マニュアル、順次）、また時間超過や予定より短くなったイベントなどの操作も可能です。

プレイリストは放送間でも変更を加えることができ、ドラッグ&ドロップ機能によりシステムを直感的かつシンプルに扱えます。プレイリスト上のすべてのプライマリ、セカンダリ、サードイベントには、自動継続的に可用性とタイミング異常のチェックを行ないます。イベントの品質管理状況や分類も常にチェックがなされ、未確認や不適切なコンテンツが放送されないよう保護します。

SmartPanel

SmartPanel (I オプション) では、局ロゴやスポンサーロゴなどの表示や消去など、頻繁に使用する機能をカスタマイズ可能なスクリーン上のパネルに専用のボタンを配置することができます。オペレータはPolaris Advance、ChannelPort、及び外部機器のマニュアル制御を行なうことができます。シングルオペレータでオートメーション化されたクライアントの高度な制御を行えるという実質的なメリットに加え、SmartPanelを介して出されるコマンドはPolaris AdvanceのAsRunログに統合されるため、レポート処理とトレーサビリティも向上します。

包括的なユーザー権限管理

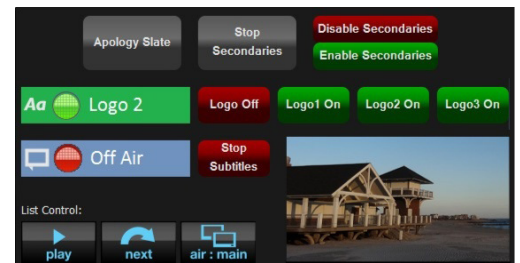
ユーザーアクセス権管理ツールを完全装備するため、システムの各エリアに対するアクセスや特権を前例のないレベルで管理できます。エンコーダやデコーダの制御や、ニアライン・ストレージとのアクセスやメディア転送、プレイリストの制御や編集特権、ユーザーインターフェイスのカスタマイズなど、エンジニアリング、オペレータおよび表示オンリーの特権を簡単に設定できます。特定の機能に関するユーザー特権やアクセスは、チャンネルごとに設定できます。

拡張性、冗長性、アップグレードパス

Polaris Advanceパッケージは、1~4チャンネルまで、また1~4クライアントまで拡張できます。各構成には完全自動切替の冗長バージョンもあります。プレイリストは動的に同期され、手動でリストを操作した場合はほぼ瞬時にミラーリングされたリストに反映されます。また、さらに復元性を向上するため、メディアはニアライン・ストレージからメインと冗長システム双方に転送されるとともに、データベースは両システム双方でミラーリングがなされます。

ワールドクラスのサービスとサポート

Harmonicは、システム設計、サービス導入、技術サポート、ネットワークメンテナンスを含む包括的なサービス/サポートプログラムでPolaris Advanceオートメーションシステムをサポートしています。ワールドクラスのサービスプランと世界中にネットワークを持つ柔軟で迅速なサポートスタッフが、どのデバイスに関しても世界中で24時間年中無休のサポートを提供します。



SmartPanelにより、よく使う機能がGUIを簡単にカスタマイズできます。

仕様

オプション

SmartPanel

- 単一または複数のプレイリスト制御のためのハードウェア制御パネル
- 冗長シリアル構成及びリモート制御パネルのためのチェンジオーバースイッチ
- ブレイアウト、インジェストまたはアーカイブのための追加クライアントライセンス

物理仕様

単一の2RU筐体に最大4チャンネルをホストするPolaris Advanceは、省スペースと省エネを実現します。冗長構成には2つのプライマリサーバーと監視サーバーが必要です。

クライアントPCの最小仕様:

- 8GB RAM搭載Core i5プロセッサ、500-GB HDD、1GB Ethernet (NIC)、1GB専用グラフィックカード
- 最小解像度1680×1050の大型ワイドスクリーンモニター